

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	山頂付近の狭隘部分での検索活動時における転落危険
3. 体験した事例の中心的要素	噴火から13日目。山頂直下、岩場の中腹にあった平坦なスペース(約8㎡)で噴石及び火山灰等の下敷きになっていると思われる要救助者の検索活動を15名程度で実施していた。スコップ等を使用し粘土質の火山灰や岩をかき出し手作業で検索を進め、さらに両手で抱えるほどの大きな岩の下を検索するため、岩にテープスリングを2箇所巻きつけ、8名程度で一気に引っ張り横に転がして移動させた。活動スペースは狭く、スリングが急に外れたり、岩が思わぬ転がり方をすれば、挟まれたり、勢い余って隊員が後方へ転落する危険性があつたと思われる。
4. 体験した事例の原因・理由	粘土質の火山灰という特殊な活動環境のため、足元が沈み安定せず、岩周辺の灰は出来るだけかき出したものの、岩の下部は粘土質の灰が貼り付き動かすのに力を要するため、小スペースながら人数をかけて引っ張る必要があつた。標高の高い山頂での活動であり資器材は限られ必要最小限しか持っていけなかった。また、隊員には活動を進展させたいという心理も少なからずあつたと思われる

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年10月11日 午後0時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：●●山山頂付近
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	救助現場活動中期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	人命検索・救出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

1. 事例発生の経過。

[illegible][illegible][illegible]

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

b. 注意力が欠如していた	
---------------	--

- ・1つの事象に集中し、他の

--	--

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

○ 状況図

